

婦人部だより

第20号
2017年7月10日発行
入間東部民商婦人部

6月末婦人部現勢 232人(会員比 64.8%)

入間東部民商婦人部の皆さまへ

婦人部長 今泉 房江

3・13 集団申告が終わり、富士見市議選が佳境のおり、3月15日に自転車で転倒し、突然の入院生活となり、その後の活動がストップ。皆さまにはご心配をおかけしました。また、お見舞いだいた方々には厚く御礼申し上げます。転倒により、脳内出血が3か所、骨折1か所でしたが手術することなく、6月23日のリハビリを最後に復帰できました。

通常なら入院した病院からリハビリ専門の病院へ移り一か月程度は入院との事でしたが、私は通院を強く希望し、18日ほどの入院でその後、自宅療養となりました。要介護3の認定をいただき、玄関の手すりや風呂のイス、ベッド際の手すり等、購入品も2割の自己負担で、はじめて介護保険のありがたみを知りました。

毎月1度、訪れるケアマネージャーさんには、「びつくりするほどよくなってる。よいお手本の珍しい例だね」と褒められました。私もまだ70歳に入ったばかり。あと10年は、ボランティア活動等をやっていききたいと思っています。今は、家族の協力あつての日常生活に感謝の気持ちでいっぱいです。

私の突然の事故、入院、リハビリの体験を少しでもお役に立てることができればと、婦人部の皆さまに御礼をこめてメッセージとさせていただきます。

夏の健康雑学辞典（食べ物編）

梅雨が明けると厳しい暑さがやってきます。今年も乗り切ってください！

★タンパク質・ビタミン中心の食事

基礎体力維持効果のあるタンパク質（肉・魚・卵豆腐などの大豆製品）や、疲労回復効果の高いビタミン中心（豚肉・レバー・うなぎ・胚芽米・豆類）がおすすめです。

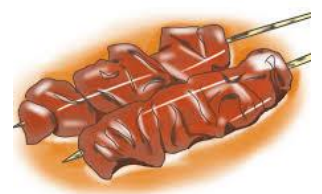
★食欲増進の薬味

暑さで食欲も減退しがちになりますが、薬味には胃に適度な刺激を与えて胃液の分泌を活発にし、食欲を増進してくれます。
わさび・しそ・ねぎ・みょうが・唐辛子・からし・カレー粉
ゆず胡椒・にんにく など



★夏野菜でクールダウン

夏野菜には体の熱をクールダウンさせる役目があり、ビタミンも豊富です。たくさん摂取するのはなかなか難しいので、野菜ジュースなどのするのもよいでしょう。
ゴーヤ・オクラ・トマト・きゅうり・なす・とうもろこし など



アメリカ軍基地があるための事故に思う



1977年9月27日、厚木基地から飛び立った、アメリカ軍の偵察機が、横浜市緑区の、人が住んでいる場所に、午後1時ごろ墜落。機体は大破。そのかけらが、火の玉となって、あたりに降り注ぎ、エンジンは吹き飛び、満タンだったジェット燃料は、墜落地点から扇のように広がって、炎があたりの家や木々を襲いました。

空には、2つのパラシュート。ジェット機のパイロットで、アメリカ兵。炎の中から、林和枝さんと、義妹さんが、赤ちゃんを抱いて飛び出してきました。顔はひぶくで膨れ上がり、着ているものは黒焦げ。下着は肌にはりつき、とけたスカートには置時計の裏ぶたが張り付いていた。また、小さなヤスくんは、体中の皮がむけて、血のかたまりのようであった。事故直後、自衛隊の救難ヘリがやってきて、パラシュートでさっさと逃げ出した、アメリカ兵だけに乗せて、ヘリは飛び立ったそうです。この事故では、パイロットの脱出が早すぎたのでは？

ボタン1つで脱出でき、しかも、乗っているのはジェット機。もう少し操縦して、海に落とすこともできたのではないかと。

そして、アメリカ軍がやってきて…。付近にいた人々を、閉め出し、現場の写真などを撮り、ジェット機やエンジンや部品などを回収し、さっさと基地に運び込んでしまいました。

これほどの惨状の中、アメリカ軍は、自分たちの保身と機密保持のためだけに、やってきたのですね…。

現場から、約2キロ近くの小学校（横浜市立鉄小学校）でちょうど開催されていた運動会の観客により8mフィルムで偶然に撮影されている。

9月28日午前0時50分。わずか3歳のユークくんは、やけどの痛みにもがき苦しみ、「お水をちょうだい。ジュースを、ジュースをちょうだい！」と泣き叫び…。最後に、かすかに口元を動かし、「バイバイ……」と言って亡くなりました…。1歳のヤスくんは、痛みを訴えることばも知らず、「パパ……、パパ……」とお父さん呼び続け、最後には、いつもお父さんとお風呂で歌ってくれていた、「はとぼっぼ」の歌を口ずさみながら…。お兄ちゃんが亡くなつてから少しあと、同日午前4時30分のことでした。

お母さまの和枝さんには、1年3カ月の間、二人の子の死が、伝えられなかったそうです。和枝さん自身、皮膚の8割が焼けただれ、瀕死の状態。我が子の死を知らせようものなら、そのまま氣力を失い、死んでしまってもおかしくない状態だったのです。すさまじい痛みを伴う治療に耐えられたのも、子どもたちのために生き延びようとした！

皮膚移植手術を繰り返しながら長期間にわたり入院を繰り返したのち、一時はリハビリを行なえるまでに肉体的には回復するものの、精神的なダメージは計り知れず、最終的には〈精神科〉単科病院に転院したが、女性の転院に関して、遺族は「国は、半ば強制的」であったと主張している。

女性はその後、事故から4年4ヶ月後の1982年1月26日に、心因性の呼吸困難により死亡した。この事件にあわれた林さんご一家は、どれほどの無念、どれほどの悔しさを、苦しみを、抱えられたことでしょう。

アメリカノ基地がなかったら、このような悲しい事件は起こらなかった事でしょう？

横浜の港が見える丘公園に、保存会の皆さんの努力で、かずえさん親子の母子像を立てたとの事です！

和江さん親子に心からご冥福を祈ります！

婦人部役員 杉田 直枝

時事川柳コーナー



詠み人知らず

自民党 口もパンツも 緩みすぎ

(失言と不倫)

出て行けと 言った貴方が 出て行つた

(今村前復興相)

総理とか 総裁だとか 安倍は安倍

誰の為 のり弁大盛り 作つたの

(黒塗りの書類)

国連が 見れば日本も やばい国

(共謀罪法案)

おいしいぞ 安倍の藪そば かけともし

(加計学園・森友学園)

国会で 正々堂々 嘘を言い

(大関 高安)

今治市 タオル投げたい 官邸に